

第5回大会

日時・昭和36年8月2日
コース・千葉CC・野田コース
(6,820ヤード・パー72)

●男子の部●

① 藤原 保之 (学習院高)	78	78	156
② 久野 勝彦 (同志社高)	80	76	156
③ 三上 正彦 (広島商高)	76	82	158
④ 高尾 克彦 (甲南高)	80	82	162
⑤ 八木 正孝 (中央高)	84	81	165
⑥ 外山 公一 (日大藤沢高)	84	85	169
⑦ 野村 龍夫 (慶応高)	87	83	170
⑧ 猿渡恵一郎 (学習院高)	85	88	173
⑨ 松沢 宏 (慶応高)	87	87	174
⑩ 池谷 正成 (慶応高)	91	84	175

103名が参加した第5回大会は学習院高1年生となった藤原選手が優勝した。またこの日は藤原選手の亡き母の百か日で藤原選手の優勝を願っていた母へのよき贈り物となったというエピソードがある。

藤原選手はその後('60、'61、'62年)全米ジュニアに出場、'62年には国際の部で1位となりアイゼンハワートロフィーを獲得した。

第6回大会

日時・昭和37年7月31日
コース・千葉CC・野田コース
(6,820ヤード・パー72)

●男子の部●

① 沼沢 聖一 (東北学院高)	80	76	156
② 三上 正彦 (広島商高)	78	80	158
③ 高橋 達宗 (成城学園高)	81	78	159
④ 田中 八郎 (PL学園高)	88	81	161
⑤ 三上 法夫 (崇徳高)	79	84	163
⑥ 猿渡恵一郎 (学習院高)	82	82	164
⑦ 佐藤 勝彦 (行田市立忍中)	79	86	165
⑦ 陳 容 (森村学園中)	84	81	165
⑦ 池谷 正成 (慶応高)	83	82	165
⑩ 狐崎 亮三 (東北学院高)	81	85	166
⑩ 藤原 保之 (学習院高)	85	81	166

111名が参加。2連勝をねらう藤原選手は気負いすぎて脱落。かわって初出場の沼沢聖一選手(現プロ)が東北人のねばり強さを発揮、猛暑にもかかわらず初優勝。又、女子では堀越百子さんが樋口久子(現プロ)、井福羽留子さんらを押えて、ベストグロスを獲得した。

第7回大会

日時・昭和38年8月5日
コース・千葉CC・野田コース
(6,820ヤード・パー72)

●男子の部●

① 沼沢 聖一 (東北学院高)	78	74	152
② 佐藤 勝彦 (熊谷高)	71	83	154
③ 戸張 捷 (慶応高)	78	80	158
④ 猿渡恵一郎 (学習院高)	81	78	159
⑤ 生田 憲一 (学習院高)	78	82	160
⑤ 白井 保彦 (日大一高)	78	82	160
⑤ 山田 健一 (和光学園高)	81	79	160
⑧ 島崎 正彦 (中大杉並高)	84	77	161
⑧ 入江 勉 (荒井中)	78	83	161
⑩ 藤原 保之 (学習院高)	76	86	162
⑩ 松本 憲二 (立教高)	81	81	162
⑩ 狐崎 亮三 (東北学院高)	79	83	162

116名が参加。沼沢選手が通算152ストロークの大会新のスコアで2連覇。第2回、3回の吉川選手について2人目。又、今回より設けられた女子の部で井福羽留子選手、中学の部で入江勉選手が優勝。

沼沢選手は午前のラウンドを78にまとめたあと午後のインでは1アンダーの35、アウトも1番から7番まで連続パーで140台が期待されたが8番のショートホールでバンカーショットをミスしてダブルボギー、9番でもボギーを叩いて152ストロークとなったもの。

第8回大会

日時・昭和39年8月6日
コース・千葉CC・川間コース
(6,670ヤード・パー72)

●男子の部●

① 吉見 啓二 (防府高)	76	75	151
② 森 道応 (東邦高)	74	79	153
② 入江 勉 (加古川東高)	75	78	153
④ 山田 健一 (和光学園高)	81	75	156
⑤ 佐藤 勝彦 (立教高)	79	78	157
⑥ 福田 浩一 (慶応高)	80	80	160
⑥ 遠藤 誠 (明星高)	79	81	160
⑥ 関 一章 (日大高)	80	80	160
⑥ 中上 竜 (学習院高)	79	81	160
⑥ 野々上健夫 (法政高)	80	80	160

83名が参加。第3回アジアアマ代表の森道応選手と山田健一選手に注目が集まったが、無名の新人、吉見啓二選手が午後に入って37、38、通算151ストロークの大会新で優勝をさらった。又、女子では初出場の花田好子選手(177ストローク)が2位の井福羽留子選手(180ストローク)を3ストロークはなして優勝した。